

# 同道遺跡



# 同道遺跡とは

## 《発見経緯》

昭和53年

学校建設に向け土地の調査で発見

**当時全国初の三重構造の水田跡**

建設途中の校舎



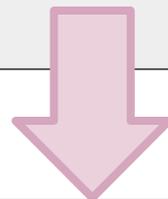
同道  
遺跡



水田を覆った火山灰の断面

[大噴火]  
弥生～現在

浅間山3回  
榛名山2回



火山灰や軽石にムラが覆われるので  
保存状態が良い◎  
⇒水田・畑・平地建物が当時の様子に近い  
当時の暮らしや様子がわかる！

## 調査に至る経緯

群馬県教育委員会によって、群馬郡群馬県井出地区に  
**高崎北高等学校の新設計画**が**決定**された。

これに伴い群馬県教育委員会文化財保護課は、埋蔵文化財の有無を確認するための  
**現地調査**を実施した。

踏査の結果、少量の土師器小片の散布を確認した。これらの採集遺物は、隣接する高燥地上の集落遺跡から流失したものであると判断されたが、前方後円墳が近接して存在するとともに、かつてその周辺では集落址の一部が発掘調査されていたなどの経緯もあり、**試掘調査**(鉤床の探査や地質調査などのため、試験的に掘削すること)の必要性が調節された。



※画像: 群馬県埋蔵文化財調査事業団『同道遺跡』(1983)

# 遺跡の発掘による校舎配置の変更

昭和53年5月から行われた遺構確認調査で、校舎・体育館建設予定地である同道地区に**埋没水田址**があることが想定されたため、本格的な発掘調査を行った。

一方、教育委員会では、来年4月の開校に間に合わせるには9月中には校舎建設工事に着手する必要があると判断し、急遽**校舎の位置を前橋・安中線沿いの前久保地区に変更**することを決断した。



# 発掘当時の様子



## の検出

As-Cで埋没した水田の他に6世紀代の榛名山噴火によるHr-FAやHr-FPと、12世紀初頭の浅間山噴火によるAs-Bで埋没した水田が重層的に発見されており、水田耕作の時期的な変遷を知る上で重要な遺跡である。



地面に穴を掘って柱を立てた建物。縄文時代のはじめ頃から近世まで、長く続いた伝統的な建築方法

- 田んぼの土中から発生する有害ガスを抜く役目
- 地耐力が強化され、コンバイン作業防除作業、ひえ抜き作業などの効率化
- 土壌が乾燥しやすく収穫後の裏作が、容易に出来る

# 発掘当時の学校の様子



見学

遺跡の説明を受けている様子。  
当時の生徒は今のように校庭で  
体育や部活ができなかった。



水田跡



業

平安、古墳、弥生の三代が堆積  
井野川沿いに集中  
周辺にも集落の一部が発掘調査  
が行われていたことから、埋蔵文  
化財の有無を確認する調査が行  
われた

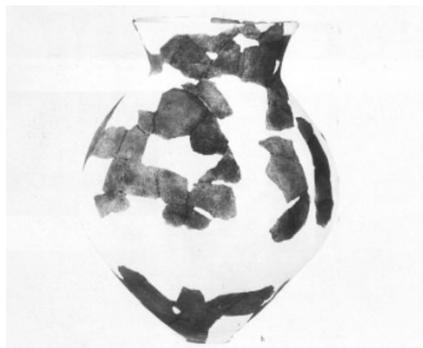
全国はじめての三重構造  
建設地に貴重な水田跡  
急遽北側校庭に設計変更

# 高崎北高校初代生徒会長の声

- 一期生が入学した頃の高崎北高校は、校舎がまだ建設の途中であり、グラウンドも遺跡の調査が行われており、満足の行く高校生活を送れなかった。
- 体育の授業や部活動に関しては、グラウンドや体育館がなかったためランニングや縄跳びをメインにした基礎体力作りがほとんどで、色々な活動ができる今の学生が羨ましい。
- 3年間の高校生活での思い出深いことは、「管理作業」である。管理作業とは、植樹や平地造りの作業のことで、ホームルームの時間や放課後など毎日のように作業をした。徐々に学校らしさが見受けられ嬉しかった。

出典：『高崎北高校十年史』

# I 期水田 発掘物

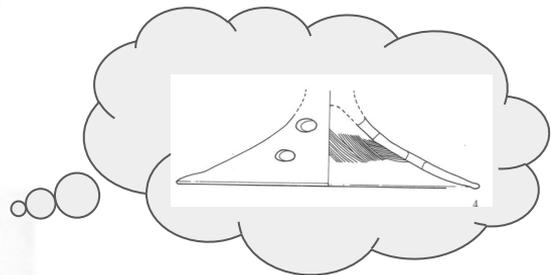


← 甕

- ・茶褐色で砂粒を多く 含んでいる
- ・最大径26.5cm  
口径17cm
- ・食べ物の煮炊きに利用される

- ・黄褐色
- ・脚部のほぼ1/3程の破片より復元

器台 →



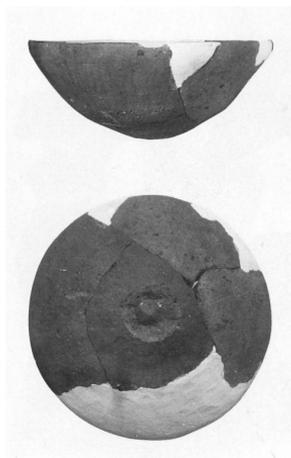
## Ⅱ期水田 発掘物

坏



- ・水路理土中から出土した褐色の坏
- ・口径12.8cm  
器高5.4cm
- ・飲食物を盛るのに用いる

高坏



- ・水田耕作面、水路理土中から出土した褐色の高坏
- ・口径15.8cm
- ・食べ物を盛るのに用いる
- ・大切なものを盛っていたと考えられている

## Ⅱ期水田 発掘物



壺

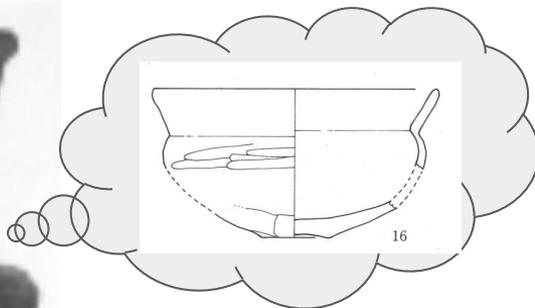
- ・水口付近の水田面から出土
- ・口径15.4cm、器高21cm
- ・褐色
- ・液体や種もみなどの貯蔵に利用

壺や坏などの様々な  
発掘物が複数出土し  
ている



埴 →

- ・水田耕作面から出土
- ・約1/5が残存
- ・赤褐色
- ・口径約14.6cm



かつて村があり、た  
くさんの人々が暮ら  
していた

## まとめ

結果として同道遺跡はかたちとしては残っていない  
⇔遺跡の姿やかつての姿を知っている人がいれば  
遺跡そのものの価値は変わらず大切なものなのではないか



同道遺跡の価値を守るためにも高北blogを通して  
たくさんの人に知ってもらいたい!!!!